

2018～2023 年度(総括) 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010201

1. 計画名称

茅野市社会教育推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各施設ともに新型コロナによる影響を大きく受けたが、イベントや事業については工夫を重ね、できる範囲で事業等実施することができた。
今後の重点化施策番号	1	説明	市(団体自治)の財政硬直化、担い手不足などによる住民自治の弱体化という地方自治全体の危機的状況の打開のため、住民「自治」の活性化のための「学び」(生涯学習)を提供する公民館のあり方を再度見つめなおし、Pまちづくりで進めてきた地縁(コミュニティ)活動・志縁(アソシエーション)活動支援および協働の推進体制を、組織統合も含めて再構築する。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	公民館の充実	おおむね順調	<p>コロナの影響により、事業に大きな打撃を受けたが、その中でも事業を実施するため、工夫して様々な取組を行ってきた。</p> <p>5類移行により、ようやく回復基調にはあるが、計画開始時の状況には戻っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動拠点としての建物及び設備の老朽化。 コロナ禍や少子高齢化の影響による担い手不足 学びを住民自治の推進につなげる取組 住民自治の受け皿になる区分館活動の連携協力 	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理は、予防修繕を基本として長寿命化を図る。 個々の学びの充実と住民自治につながる活動の整理 中央公民館と地区CC、市民活動センターの機能見直しと組織統合の検討
2	図書館の充実	おおむね順調	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍では運営に制限をかけたサービスに努めた。5類移行後は制限等を徐々になくしおはなし会や講座など通常どおり活動を行うことができた。 また、市町村と県による協働電子図書館事業「デジとしよ信州」の登録推進を図った。 コロナで減少した入館者数は少しづつではあるが増加してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会ボランティア団体の高齢化を考慮すると新たな実践者の育成を図る必要がある。 利用者のニーズに応えられるよう職員のレベルアップが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設再編計画における今後の施設のあり方については、一定の方向性を出すことができたため、方針に沿った運営を進める。 電子図書館「デジとしよ信州」の周知を行い利用促進を図る。
3	八ヶ岳総合博物館の充実	おおむね順調	<ul style="list-style-type: none"> 市民研究員養成講座では、活動発表展の展示だけではなく、研究結果の発表を行い、成果を市民に還元していく方向を見出した。 プラネタリウムは徐々に上映希望団体からの申請が増えてきた。人数を制限するものの、団体対応や出前講座に出かけることができた。 文芸館の展示を再開することができ、新収蔵資料を市民に公開することができた。 高校・大学との連携を進め、博物館事業を協力で開催することができた。 	<p>新型コロナウイルス感染症により離れていった来館者に再び博物館に戻り学習を進めてもらうため、市民ニーズを的確にとらえた学習機会の提供と、それを周知する情報発信の方法を模索する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講座の新設や、視点を変えた企画展・特別展を開催する。 新収蔵資料を随時公開し、学習機会を提供する。 デジタルアーカイブ構築への検討やデジタルを使った、配信などを考えていく。
4	尖石縄文考古館の充実	おおむね順調	<p>臨時開館を含み313日開館、無料開館日1日と市民向け無料開館日を20日、企画展1回、ロビー展1回、縄文教室5回及び作品焼き上げのための野焼きを1回、縄文文化大学講座1回、縄文ゼミナール3回のほか、市民無料開館期間中に親子向け講座1回、ギャラリートーク3回と、ロビー展会期中にギャラリートーク1回及び企画展会期中にギャラリートーク6回を開催。</p>	<p>年間入館者数、観覧料ともに前年度よりやや減少したものの堅調である。県外からの入館者が多い一方で、市内郡内入館者数は少ない印象である。今後、長く当館事業を実施するためには、市内在住の方の入館者を増やすことも必要と考える。</p>	<p>県外から多くの方が来館される一方で、地域にある遺跡博物館であることから市民の入館者数を増やしていく必要がある。当年度に実施した市民向け無料開館キャンペーンを持続できる内容で引き続き実施し、市民に足を運んでもらうようにする。</p>
5	神長官守矢史料館の充実	順調	<ul style="list-style-type: none"> 企画展を年間3回開催した。 日常的に館の職員が常設展の展示解説を行っており、来館者の展示に対する理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪圏外からの来館者に比べ圏内の来館者が少ない。 開館から30年以上が経過し、補修箇所が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。 新型コロナウイルスの流行期間開催することができなかった企画展以外のイベント開催について検討する。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」

3. 各施策等における評価内容と改革改善(5つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	地域づくり・ひとづくりの推進	おおむね順調	生涯学習講座関連の講座では、外部講師により、児童・先生への教育を進めることができた。また5年間のうち、約3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が思うようにできなかったが、工夫して実施できたことを取り入れながら市民団体の活動に活かすことができた。	生涯学習関連の講座について、学校開放講座は先生の負担が大きい。また市民団体の高齢化に伴う活動の維持と市が事務局としてどうかかわるかが課題。	生涯学習講座関連の講座の先生への負担の軽減、また市民団体の活動の見直しや事務局としてのかかわり方を検討する。
7					
8					
9					
10					